

血液がんサロン

第4回

血液がんの新しい治療，新しい移植を学びましょう！

(医師や看護師、他の患者さんといろいろな話をしてみましょう)

日時2016年11月5日(土) 14:00~16:20
原三信病院 第1会議室・健康管理センター待合室(2箇所)
(案内図をご参照下さい)

原三信

第Ⅰ部 講演(65分) 第1会議室

1演題目はドナー選択など大きな変化しつつある造血幹細胞移植について，2演題目は～2017年にかけて登場する新薬が目白押しの骨髄腫について，3演題目は悪性リンパ腫を乗り越えた患者さんから体験をお話しいたします。

1. 進化する造血幹細胞移植 ～新しいドナー選択・GVHD予防～ (20分)
血液内科 医師 上村 智彦
2. 進歩する多発性骨髄腫の治療 (20分)
九州大学 別府病院 講師 伊藤 能清
3. 悪性リンパ腫と向き合って～葛藤の中での治療と克服～ (25分)
患者 上野 昭雄

休憩・移動時間 (15分)

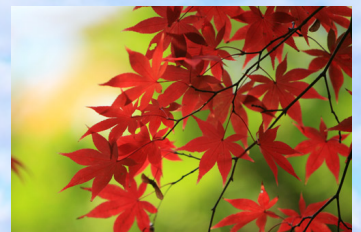
第Ⅱ部 フリーディスカッション(60分)

テーマ：今回は，主にご自身の受けた，あるいは受けている治療について，感じたこと，疑問や不安だったこと，何でも話し合ひましょう。

3グループに分けて
(第1会議室 1グループと健康管理センター待合室 2グループ)

医師，看護師，社会福祉士(ソーシャルワーカー)，理学療法士のアドバイス，そして何より，他の患者さんやご家族のお話を聴くことができます！

原三信病院血液内科で治療中または通院中の患者さん，ご家族の方，どなたでも参加いただけます。是非一緒に病気のこと，治療や生活のことを考えましょう。ご希望の方は，主治医，看護師に申し込み用紙をお渡し下さい。





2016年11月5日（土）
14：00～16：20
原三信病院
第1会議室
ヒノマルビル 4F

第II部ではグループごとに
別れます。

第I部 ① 医師 上村 智彦

白血病などの造血器悪性腫瘍に対する、最も強力な治療として、自分以外の人（ドナー）から「血液の大もとの細胞」である造血幹細胞の提供を受け、血液を入れ替える治療が『同種造血幹細胞移植』です。これは強力な「免疫治療」ですが、この免疫反応は副作用にもつながります。この1-2年ほどで変わりつつある、新しいドナーの選択について、また強すぎる免疫反応のコントロールについて紹介します。

第I部 ② 医師 伊藤 能清（原三信病院 H26年度まで在籍）

多発性骨髄腫は、2000年代半ば以降、ボルテゾミブやレナリドミドなどの新薬が登場し、治療成績が大きく改善しています。日本でも、今年も8月にカルフィルゾミブが使用可能となり、さらに11月には今までの薬と作用機序が異なる抗体薬であるエロツズマブも使用できるようになります。新薬がもたらす骨髄腫治療の変化について、今後の期待や展望とともにお話します。

第I部 ③ 患者 上野 昭雄

悪性リンパ腫と告知を受けて、自分で病名を理解するまでいろいろな気持ちの変化がありました。そして、抗がん剤治療のつらさを体験し、8コースを受けた後も、いつ再発するかわからない安心できない日々を送っている時に、再発と告げられ、移植をするかしないかのジレンマと戦いました。つらい移植を乗り越えてもなお、3年間はまだ再発するのでは、といった不安な思いを抱えながら過ごし、今に至る日々についてお話します。